

# 薬物治療モニタリング研究会第121回例会

## テーマ「精神科治療におけるTDMの役割と実践」

日時

2025年3月1日(土) 15:00-18:10

開催方法

Web開催(Zoomを予定)

受講料

一般会員：500円、学生会員：無料、非会員：2000円、学生非会員：1000円

多くの精神疾患では、向精神薬による薬物治療が行われます。これら精神神経科用剤の多くがハイリスク薬に指定されており、多剤併用による相互作用も含めた薬物のリスクマネージメントを必要とします。日本では、統合失調症に対するハロペリドール製剤やブロムペリドール製剤、躁うつ病に対するリチウム製剤、バルプロ酸ナトリウム、カルバマゼピンが、特定薬剤治療管理料の対象薬物ですが、TDMの実施は限られています。一方、2022年度より新たに治療抵抗性統合失調症治療薬のクロザピンが特定薬剤治療管理料1の算定対象となり、血中濃度を指標とした投与量の調整が注目されています。

本例会では、精神科治療薬の副作用モニタリングと精神疾患におけるTDMの意義、クロザピンのTDMの実践について、お二人のエキスパートの先生から最新の知見をご講演頂きます。本例会が、精神科治療におけるTDMを理解する機会になればと考えております。

今回はリモート開催のため、気軽にご参加ください。全国の皆様のご参加を、お待ちしております。

オーガナイザー・座長： 岡田 賢二 先生（横浜薬科大学 臨床薬剤学研究室）

### 講演 1

#### 「精神科治療薬の副作用モニタリング」

鈴木映二 先生（東北医科薬科大学医学部精神科学教室教授・精神科長）

### 講演 2

#### 「クロザピンのTDM」

赤嶺由美子 先生（秋田大学医学部附属病院薬剤部講師 副薬剤部長）

事前登録をお願いいたします（2月24日まで）。

1) ご氏名、2) ご所属、3) 連絡用メールアドレスを記入して、研究会事務局メールアドレス（[info@rgtdm.org](mailto:info@rgtdm.org)）にてお申し込みください。会費は銀行振り込みでお支払いいただく予定です。

日本病院薬剤師会の研修単位シール（V-2）を申請しています。

薬物治療モニタリング研究会 (<https://www.rgtdm.org/>)